(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3140158号
(U3140158)
(45)発行日　平成20年3月13日(2008.3.13)　(24)登録日　平成20年2月20日(2008.2.20)

(51)Int.Cl.　F I
A47L 25/00 (2006.01)　A47L 25/00　A

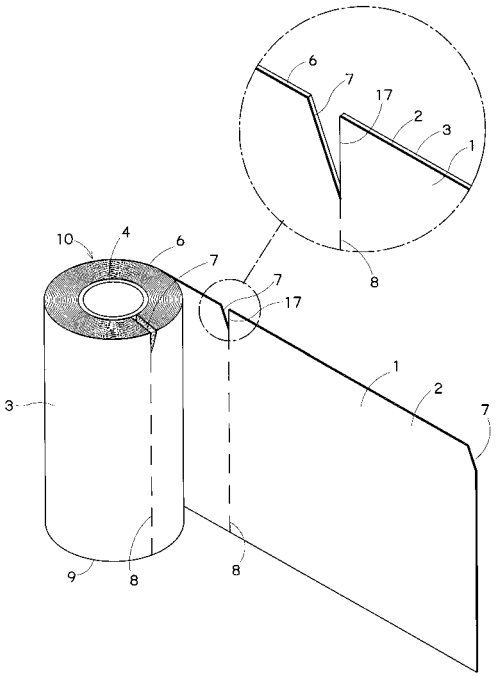
評価書の請求 未請求　請求項の数 4　ＯＬ　（全 6 頁）

(21)出願番号　実願2007-9927(U2007-9927)
(22)出願日　平成19年12月26日(2007.12.26)

(73)実用新案権者　391042058
株式会社ユニークテープ
埼玉県さいたま市見沼区東大宮６丁目１５番地４
(74)代理人　100081547
弁理士　亀川　義示
(72)考案者　鎌田　伸也
埼玉県さいたま市見沼区東大宮６丁目１５番地５

(54)【考案の名称】ゴミ取り粘着ロール

(57)【要約】
【課題】ゴミが付着して見つけ難いロールの端部を簡単に見つけ出し、汚れた表面のテープを容易に剥がし、切り除くことができるようにする。
【解決手段】可撓性の基材２の一面に粘着剤層３形成して一定幅の粘着テープ１とし、その粘着剤層３が外面になるようにして巻芯４に巻回する。こうした巻テープの少なくとも一側端辺６にテープの幅方向に延びる切欠案内部７を上記巻芯４に達するように形成する。この切欠案内部７は、粘着ロール１０の表面がゴミで覆われたときにも、引き剥がそうとするロールの端部であることを示すことができる。また、巻戻した粘着テープ１をこの切欠案内部７をガイドとして容易に切り離すことができる。この切欠案内部７は、Ｖ字状又はＵ字状に形成し、更に、切欠案内部７に連続して不連続切線又は連続切線を設けることができる。
【選択図】図２



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
可撓性の基材の一面に粘着剤層を形成した一定幅の粘着テープを、その粘着剤層を外面にして巻芯に巻回し、上記粘着テープの少なくとも一側端辺にテープの幅方向に延びる切欠案内部を上記巻芯に達するように形成したゴミ取り粘着ロール。
【請求項２】
上記切欠案内部がＶ字状又はＵ字状で形成されている請求項１に記載のゴミ取り粘着ロール。
【請求項３】
上記Ｖ字状又はＵ字状の切欠案内部に連続して切取用の不連続切線又は連続切線が形成されている請求項２に記載のゴミ取り粘着ロール。
【請求項４】
上記切欠案内部がロールの一端縁辺から他端縁辺に至る溝を形成するようにされている請求項１に記載のゴミ取り粘着ロール。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、粘着剤を使用したゴミ取り粘着ロールの改良に関する。
【背景技術】
【０００２】
ゴミ取り粘着ロールは、粘着剤層が外面になるように巻芯に巻回したもので、このロールを汚れているカーペット、床面等の上を転がし、粘着剤層にゴミを付着させて清掃を行うものである。上記粘着剤層に多くのゴミが付着して粘着性が低下し、清掃ができなくなった場合には、汚れた部分を剥ぎ取って新しい粘着剤層を露出させるようにしており、こうした汚れた部分を剥いで取り除くために、ロールのテープに切取線を設けている。
【０００３】
従来、この切取線は、一面に粘着剤層を形成したテープの一側縁部から他側縁部に向かって真直ぐにミシン線を設けたり（特許文献１）、斜め方向に段違い状に切れ目を設けたりしているが（特許文献２）、こうしたものでは、清掃を行ったときにロール状のテープ表面の全面に多くのゴミが付着し、引き剥がそうとするロールの端部（前回に切り離されたミシン線の部分）が判らなくなり、これを見つけ出して汚れた表面のテープを剥がす作業が容易ではなかった。
【特許文献１】特開平１１－１５５７９７
【特許文献２】特許第３４６１３３８号
【考案の開示】
【考案が解決しようとする課題】
【０００４】
本考案は、清掃を行った後で粘着ロールの表面の全面に多くのゴミが付着していても、引き剥がそうとするロールの端部を確実に見つけ出すことができ、巻戻した後で汚れたテープの部分を容易に引離すことができるようにしようとするものである。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
本考案は、可撓性の基材の一面に粘着剤層を形成して一定幅の粘着テープとし、その粘着剤層が外面になるようにして巻芯に巻回し、こうした巻きテープの少なくとも一側の端辺部分にテープの幅方向に延びる切欠案内部を上記巻芯に達するように形成する。この切欠案内部は引き剥がそうとするロールの端部であることを示すことができ、また、巻戻した粘着テープを切欠案内部から切り離すことができる。
この切欠案内部は、Ｖ字状、Ｕ字状などに形成することができ、また、この切欠案内部に連続して切取用の不連続切線又は連続切線を、他側端辺まで又はその途中まで設けることができる。

そして、上記切欠案内部をロールの一側端辺から他側端辺に至るような溝を形成するようなものにすることもできる。

【考案の効果】

【０００６】

本考案は上記のように、粘着剤層が外面になるように巻回した巻粘着テープの少なくとも一側の端辺部分に、テープの幅方向に延びる切欠案内部を設けているので、清掃を行って粘着ロールの表面の粘着剤層の全面に多くのゴミが付着していても、上記切欠案内部が見えなくなることは無いので、この切欠案内部から巻粘着テープの端部を摘まんで汚れた表面のテープを容易に剥がすことができる。また、粘着テープを巻戻した後で、この切欠案内部をガイドとして容易に汚れた粘着テープを切離すことができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【０００７】

可撓性のテープ状の基材２には、紙、プラスチックフイルムその他の材料を使用することができるが、通常、経済性の上から紙を使用することが多い。このテープ状基材２の幅は用途に応じて適宜の幅にすることができ、通常、約９～３０cm程度の幅にすることが多い。

【０００８】

この基材２の一面には粘着剤層３を形成し、他面には基材や粘着剤の種類に応じて必要により軽い剥離処理を行う。上記粘着剤層の粘着剤には、ゴム系、アクリル系その他の粘着剤を使用することができ、一般的には、ホットメルトタイプの粘着剤が使用されることが多い。

【０００９】

基材２に粘着剤層３を形成した粘着テープ１は、その粘着剤層３を外面側にして巻芯４に巻回する。こうした巻テープの一側端辺６には、テープ１の幅方向に延びる切欠案内部７を設けており、この切欠案内部７は巻芯４に達するように巻回されたテープが切欠かれている。図示する切欠案内部は、テープの内側に向かってＶ字状を描く形状に形成されており、更に詳細には、Ｖ字状の一辺１７がテープの長手方向と直交するようになっている。

また、上記した切欠案内部７に続けてテープの幅方向に延びる不連続切線８を設けるとこの不連続切線に従って、テープは容易に幅方向に切断されて切り離すことができるようになる。

【００１０】

このゴミ取り粘着ロール１０を使用する場合、操作用ハンドル（図示略）に回転可能に取付け、粘着剤層３が露出されているこの粘着ロール１０を汚れたカーペットなどの上を転がして行くと、粘着ロール１０の回転に伴ってゴミを万遍なくきれいに付着して取除くことができる。

【００１１】

こうして使用していると、粘着ロール１０の表面の粘着剤層３にゴミが付着して次第に清掃ができなくなるが、そのときには粘着剤層３の全面はゴミに覆われた状態になって、ロール表面の巻き終り端部が判らなくなるが、この巻き終わり端部に対応する粘着ロール１０の一側端辺には、切欠案内部７が位置しているのでこれが目安となって、容易に巻き終り端部を見つけ出すことができる。そして、この切欠案内部７からゴミが付着して汚れた一巻分の粘着ロール１０を巻き戻し、次の切欠案内部７から粘着テープ１をその幅方向に向かって引っ張ると、切欠案内部７から切り離しが始まり、更にこれに続く不連続切線８に沿って切離されて、汚れた粘着テープが除かれる。

【００１２】

この切離されたシートは、ゴミの付いた粘着剤層を内側にして折畳んで棄てることができ、ロールの外面には汚れていない新しい粘着剤層が露出されるので、上記したようにロールを転がしながらゴミを付着させてきれいに清掃を行うことができ、逐次、同様にしてゴミ取り粘着ロール１０による清掃を行うことができる。

上記切欠案内部７は、上記の如く粘着ロール１０の一側端辺に形成してあるが、更に他側端辺にも設けるようにすれば、どちら側からでも切り離しを行うことができる。

【００１３】

図３に示すものは、切欠案内部７を一方が直線状のほぼU字状に形成したもので、上記V字状のものと同様にして使用することができる。

図４のものは、粘着ロール１０の一側端辺６から他側端辺９に向かって連続する溝状の切欠案内部７を設けたものであり、このものでは一層明瞭に巻き終り端部を見つけることができるようになり、汚れた粘着テープの除去も容易である。また、粘着ロール１０の一側端辺６から他側端辺９に向かって並行する切込線を設けておき、使用する前にこの並行切込線の間の部分の全部または一部を逐次取除いて溝状の切欠案内部を形成して使用するようにすることができる。

【００１４】

図５に示すものは、粘着ロール１０の一側端辺６に設けたV字状の切欠案内部７から、他側端辺９に向かって粘着ロール１０の幅方向の途中まで連続切線１２を設けたものであり、粘着ロール１０の長手方向よりも幅方向に切れ易い紙、プラスチックシートなどの基材２を用いた場合に有効であり、上記切欠案内部７から連続切線１２に案内されて他側端辺９に至るまで幅方向に切離すことができる。

更に図６に示すものは、上記図５における連続切線１２のないものであって、図５のものよりも、幅方向に一層切れ易い基材２を用いた場合に効果的に使用することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１５】

【図１】本考案の実施例を示すゴミ取り粘着ロールの斜視図である。

【図２】図１のゴミ取り粘着ロールの一部を巻き戻した状態の斜視図である。

【図３】他の実施例を示す斜視図である。

【図４】更に実施例を示す斜視図である。

【図５】他の実例を示す斜視図である。

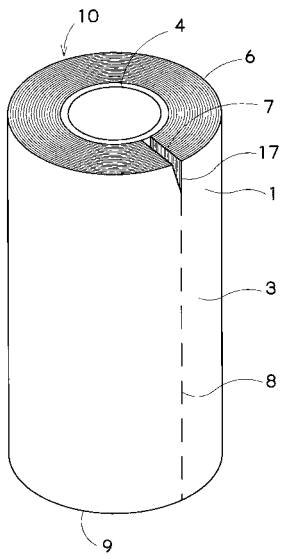
【図６】更に他の実例を示す斜視図である。

【符号の説明】

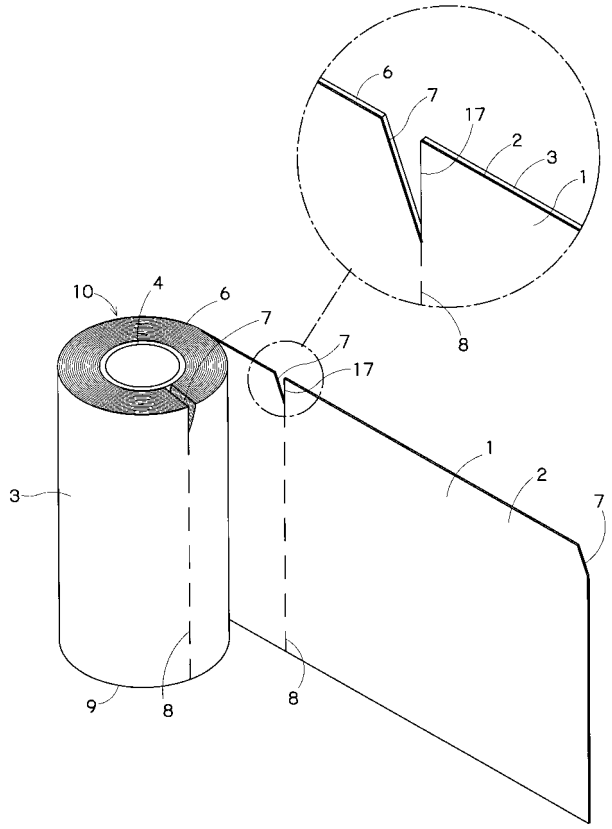
【００１６】

１　粘着テープ
２　基材
３　粘着剤層
４　巻芯
６　一側端辺
７　切欠案内部
８　不連続切線
９　他側端辺
１０　ゴミ取り粘着ロール
１２　連続切線

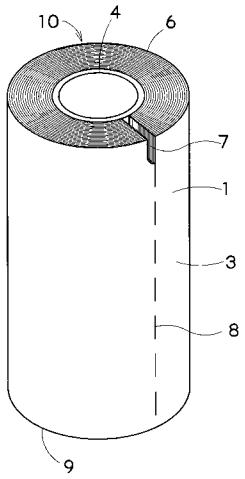
【図１】


10
4
6
7
17
1
3
8
9

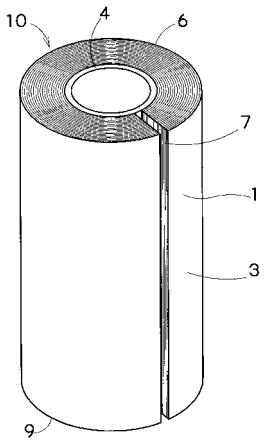
【図２】


6
7
17
2
3
1
8
10
4
6
7
7
17
1
2
7
3
9
8
8

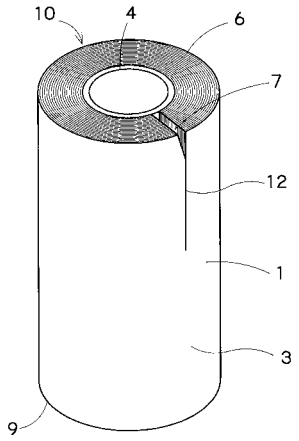
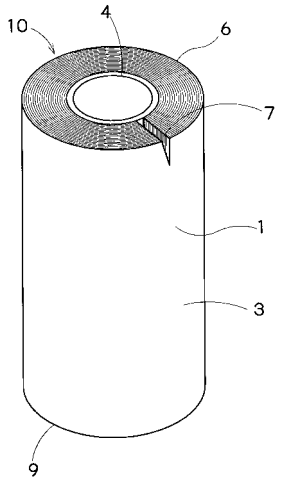
【図３】


10
4
6
7
1
3
8
9

【図４】


10
4
6
7
1
3
9

【図５】



【図６】